

麻布大学との産学共同研究

飼育下におけるベニコンゴウインコの毛引き行動と
遊離アミノ酸の関連性に関する研究を開始

動物における栄養学的観点からの改善を目指す

東武動物公園（東武レジャー企画(株)、埼玉県宮代町、取締役社長：石附栄一）では、動物や生命科学分野で高い専門性を誇る麻布大学（神奈川県相模原市、学長：村上 賢）と、「飼育下におけるベニコンゴウインコの毛引き行動と遊離アミノ酸の関連性に関する共同研究」を開始します。

脱毛を引き起こす自己向性の問題行動は、さまざまな動物種で確認されており、鳥類においては「毛引き行動」が代表的な例として挙げられています。毛引き行動の原因には、社会的ストレスや疾患など多岐にわたる要因が関与していると言われていたのですが、これまでの麻布大学の研究では、遊離アミノ酸の投与によりストレス関連疾患を抑制できる可能性が示唆されており、代表的なストレス行動である常同行動と遊離アミノ酸との関連も明らかになってきました。これにより、ストレス抑制効果を持つ遊離アミノ酸を給餌することで、毛引き行動の緩和にもつながる可能性があると考えられています。

こうした背景を踏まえ、当社においては、動物における栄養学的観点からの改善を目指すために、当社飼育の毛引き行動が見られるベニコンゴウインコに対し、麻布大学との共同研究を実施するものです。詳細は以下の通りです。

■対象個体

- 【種名】ベニコンゴウインコ
- 【愛称】サニー
- 【性別】雄
- 【年齢】推定17才

■種名情報

ベニコンゴウインコ

- 【学名】*Ara chloropterus*
- 【分類】オウム目 インコ科
- 【分布】南アメリカ北部の森林
- 【特徴】長尾型の尾をもつ大型のインコ。羽毛は部分的に赤く、背中と尻が薄青色をしており、空を飛んでいる時は大声で互いに鳴きかわす。寿命は約50年程度で、野生下では主に、果実、種子、昆虫を食べて生活をしている。

■研究内容

- 【研究期間】2025年7月2日（水）～8月16日（土）
- 【研究場所】東武動物公園内 小獣舎
- 【研究内容】1日1回、遊離アミノ酸を餌、または水に混ぜて与える。
カメラを展示場に設置し観察。3日に1回糞便、また月1で羽毛をサンプル採取

